

会誌

第 10 号

つきみ野

10年の思い出



(昭和五十四年のつきみ野入口)



(昭和四十四年のつきみ野入口)

目次

五十三年度自治会活動報告	一
五十三年度自治会会計報告（中間分）	二
アンケートの集計結果	三・四
つきみ野の思い出	五・十六
会計の四季	十七
夢・ゆめ・ユメ	十八
歩行ラリー大会	十九
スケート	二〇
自主防災組織のしくみ	二二

五十二年度自治会活動報告

今年度自治会行事活動を実行するに当り、

地区別懇談会を通じての貴重な御意見を、母体に、会員各位の積極的な参加、役員組長始め、実行にあたられた各種委員の協力を得て、予定通り実施出来ました事を、感謝申し上げますと共に、更に充実した自治会の活動と、住み良い環境作りに、つきみ野会員の英知を結集される事を期待し、行事報告と致します。

要望

七月 地区懇談会才四回実施

不用品交換即売会開催 売上金の一部は福祉施設に寄附

団地内に外灯一基新設

八月 つきみ野納涼大会(二日間)

団地に初のおみこし(手作り)が、

四台 夜は盆踊り、売店など、

ふるさと夏祭りをPR、NHKラジオにて全国放送

四月 才五回総会 五十二年度委員功勞者に感謝状贈呈

納涼大会記録映画会開催

五月 地区懇談会才一回 才二回実施

サークル活動として子供文庫発足

簡川の清掃実施

六月 地区懇談会才三回実施

溝蓋補充一五〇枚市より受領

公園三ヶ所の除草実施、空地の除草は組別実行される様、組長会を通じて

大田地区体力づくり運動会参加

十二月 つきみ野バス停前安全地帯の整備

市より花台二十基委託、老人会が中心となり花樹を設置

十二月 もちつき大会開催

つきみ野地区自主防災組織設立

一月 つきみ野通学路にバックミラー設置

三月 次期自治会長選出

新旧組長会引継ぎ



昭和53年度つきみ野自治会 会計報告(中間分)

自昭53,4～至昭54,2

会計 田 村 武 雄
大 和 勝 世

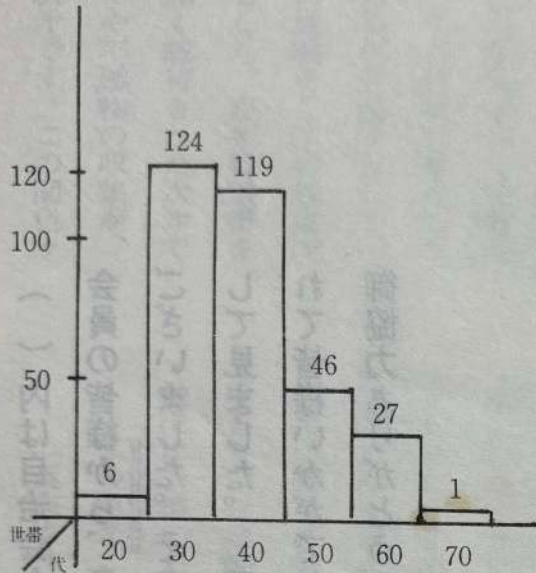
前年度繰越金 1,194,232円

	(予算額)	(決算額)	(予算に対する割合)
収入の部	1,750,000円	2,028,979円	115,9%
(内訳)			
自治会費		1,490,850	
(児)負担金		23,100	
市交付金手数料		423,970	
利息その他		91,059	
支出の部	2,310,000円	1,977,763円	85,6%
(内訳)			
寄付金		424,421	
(児)管理費		84,645	
行事費		412,531	
地域交際費		233,730	
サークル補助金		180,000	
街燈電気料		141,433	
衛生費		58,470	
その他		442,533	
現在高		1,245,448円	
(内訳)			
現金		58,161	
預金		1,187,287	

アンケート

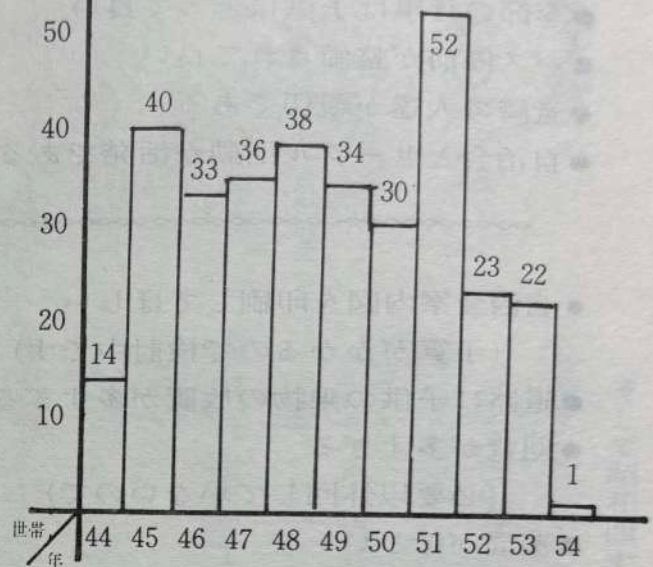
はじめての試みとしまして会員の皆様に、アンケートをとらせていただきまして、その集計の結果をお知らせ致します。

3.世帯主の年齢は



三十代と四十代の方がつきみ野の中では70%を占めております。働き盛りの方々ばかりなので、つきみ野も良くなるでしょう。

1.あなたはつきみ野には何年に越して来ましたか。



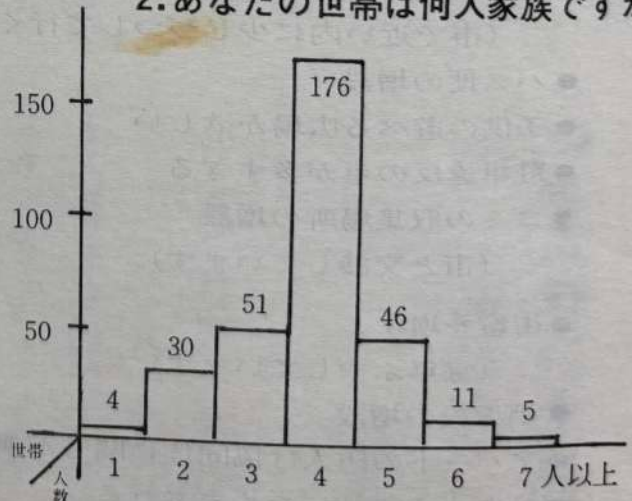
このグラフから見てもわかりますように、児童館の裏に東急不動産の建売の方々が入居してきたので51年が一番多いですね。あとの年は平均しているようです。

4.つきみ野に住んで満足していますか。

している	23%
まあまあ満足してる	72%
していない	5%

やっぱり皆様自分の家ですからほとんどの方が満足していらっしゃるようで安心致しました。

2.あなたの世帯は何人家族ですか。



これは何んと云っても夫婦と子供の標準家庭が一番多いようです。つきみ野の世帯の中で半数以上の家庭が四人家族です。

つきみ野今昔

自治会長

私は昭和四五年三月につきみ野住民と成りました。そして……半年後のある日突然三四名の奥さん方が見えられまして、生ゴミの処置や伊勢原公報等の件についてこまり何んとかして戴きたいとの要望がありましたので、早速市にこの要望を伝へまして善処をお願い致しました。所が市側に於てはつきみ野団地は、未だ市の方に箱根登山より土地の移管が無いので、市としての行政は無いのでまず市の行政を受けるための手続きとして、要望書を提出して、市の地域としての認定が先決である事が判明しました。急ぎ要望書を提出しました所、間も無く認可された次才です。これによって生ゴミや不燃物の収集が、正式に才一步に入った次才です。この間色々問題が有りましたが……

そして昭和四十六年四月頃につきみ野自治会が才一步として発足致しました。

そして又住民の要望に答えて、児童館の設置に私は、運動を起して議員又は市に対して建設促進の方法を何回となく運動して参りましたところ昭和四十八年三月つきみ野児童館建設が決定されたとの通知を市側から受理致しました。

ところが住民の一部の先導により負担金問題でこじれて私はついに会長をやめる決意を致しました次才です。

そして今こうして又会長として働ける事は「正しければ必ず最後は勝」その信念で今後も住民のみなさんと手を取り合つて、共に泣き、共に笑つて平和な団地の生活を大切にして行きたいと念願して居る次才です。

最後に一言いわせて戴きます。

私の信念

「真実を知らずして

人を批評するなかれ」

つきみ野に十周年を

迎えるに当り

山根光野

(八十一才)

私が息子に頼まれて、おばあちゃん行つて見てこないかと云われ、行つた事もない、行き様も知らない所へ行つて、お前が自分で決めて置いて、よその人が先きに買つてしまえば駄目でしょうと云つて、それも皆書くからと申しますので、箱根登山で第一次に売り出したのが昭和四十三年九月一日で息子が番号付きで、これが無かつたらこれ、其れも無かつたらこれと、いくつも書いてくれました。バスで下北沢迄来て、小田急電車で伊勢原駅で降り、バスの時間を見た所、丁度一時間立たなくては出ないので、とても暑い日でしたから、皆外の日陰へ行つて待っていようと云つてどいてしまい、タクシーでもと思ひまし

たが、お先まっくらで乗るのも心配で誰かも
う一人同じ所へ行く人は居ないかと思つて丁
度OXの入口の所に私と同じパンフレットを
持った人が居りましたから、一寸お尋ね致し
ますが私は此のパンフレットの所へ行き度い
のですが、バスの出る迄まだ一時間有るので
と申しますと、あ、そうですか「オーイ。お
客さんだよ」と大きな声で今の東急の出店の
有る方へ向かつて言いますと、すぐ足元へ乗
用車が来、送り迎えをしてくれましたので良
い人に聞いたものだと思います。今の南公
園の所が事務所で道路は出来て居りましたが
未だ舗装が出来て居りません。雨上りで道が
悪くおまけに息子のしるしをしてくれた所は
始まりの方の番号の所はほとんどチェックさ
れて居り、後で聞いたら皆さん売り出す前に
予約されたのだそうです。それで方々、案内
されましたが割合広くて安い様な所は日当り
が良くない様だし、返事をしないで居りまし
た。今私共の居る所は若いよその方が始めき

められたので他を見て居りましたら其の方が
別の所をきめられたのでもう少し広いと良い
がなと思つたのですが、日当りも良さそうだ
し、道路も南西両方六メートル有るからと思
つてきめて家に帰り、自分で日曜日にでも見
て他に良い所があつたらかえて来なさいと申
しましたら、見ると迷うからパンフレットで
きめた事でおばあちゃん良い所をきめて来て
くれたと思つて居るんだと申されましたので
ほつとしました。四十四年八月から始めて十
一月九日に世田谷から引越して参りました。
私がいけない方が物が捨てるのに都合が良いか
らと云つて、私の旅行に行つた留守に引越し、
私はもうバスも無い夜でしたから、タクシー
に乗りましたが前に空地の所へ家が建てかけ
て有つたり、夜でさっぱり分りませんので運
転手さんにおりて歩きますと申しましたら、
おばあちゃん荷物があるから家迄行つて上げ
ますよと云われ其の時はほんとにおらが家は
どこだんべと云つた始末でした。今、国大四

年の女の子が中学一年で来年三月迄こちらへ
通つて頂き度いと云われ、自分もお友達と別
れ度くなくて伊勢原駅迄歩き、伊勢原から下
北沢迄小田急線で行きバスに乗り、又乗りか
えて通つておりましたが体が降りてもカバン
が人にはさまれていて、中々出て来ないので
あぶないので十二月いっぱい伊勢原中学へ
転校しました。世田谷の中学へ通う頃は、つ
きみ野は外燈もなくつきみ野にはバス停も無
く、西沼目へまっすぐに坂を登つて西沼目の
バス停へ行きました。ある時息子がバス停へ
行く近道がある、半分位だよと言われてあら
よかつたとき昔からの農道を通いました。
孫達には懐中電燈と非常ベルを持たせて通わ
せました。今は木も切り払われて明るくなり
ましたが、椎の木樫の太木が何本も有り、少
し位の雨では土がぬれなかつたのです。足立
さんの植木畑の木が遠くから見ると人が立つ
て居る様に見える味が悪くて、日が暮れたら
お使いに行かれませんでした。大田小学校の

近辺は皆、田んぼでしたから夜になると蛙の鳴き声がよく聞えました。息子が中学へ行っている子に、あれ何の声だと聞きましたら、知らないと言ったので、あれは蛙だよと申しましたら「マサカ」と云ったのでうそだと思つたらおばあちゃんに聞いて見ろと言われて私の所へ聞きに來ましたから「そうよ」と申しましたら「へエー」とびっくりして居りました。それに引きかえ、此の頃は外燈も沢山つき、団地内に洗濯屋さん何軒も出來、御店屋さん何軒も出來郵便局が出來て便利になりました。始めは市役所より遠くて、小包でも出そうと言う時は、大変でした。始めはとなり組も全部で三組で郵便局の通りを境に向側とこちら側に分けてバス停から坂を登りきつて又少し下つた所迄受持つて、第一の組長を二年やりました。其の間渋谷さんが自治会長をやつて下さったのですが、方々のお宅へ伺うと会費を取つて下さいと言われるので申上げて、もう少し家がふえたらとおつしや

いますので、おとりにならないで、何年かやつて下さいました。

又つきみ野寿楽会の会長さんもやつて頂いて居りますが、男女をとわず御年寄りの方もまだ大勢さんいらつしやる様に思いますので、紙上をお借りして御入会をおすすめ致します。色々趣味の会があり、民謡、民謡、書道、俳句、詩吟、手芸、茶の湯等御座いますからお好きな教室へお入り下さい。

「伊勢原市民となりて十年や年の春」

~~~~~

### 「あの頃のこと」

西 東 照 子

十年一昔という言葉がありますが、我家もここに住んで早くも十年が過ぎ去りました。あの頃は、誰れも住んでいない丘の上に、我家だけがポツンとあり、買物は明るいうち

にすませない、街燈がなかった、夜などとても外に出られないほど寂しい所だったので。早く誰か引越してこないかしら」「子供の遊び相手が来るといいけど」そんな事を考えていました。水道はいくら出しても赤土が交り、洗濯物は、風が強くて竿のままとんでいつてしまい、白い物は乾いても茶色になっていたり、炊事の時や、お風呂の途中にガスが急に細くなつてしまつたり、蛇が家の中に入つてきたり、はえが多くて食事もゆつくり出来なかつたくらい大変な毎日でした。でも良かった事が一つだけありました。それは夜景がとても美しかった事です。新幹線が寶石をちりばめた様な平塚の町を走つて行くのがとても美しく見え、夏は江の島や厚木の火花までが家の中から見ることが出来ました。そんな事も今は昔のことになつてしまつたのです。しかし今もあの頃と少しも変わっていない事が幾つかあります。

四季の彩に映える大山の雄姿

春には、故郷を思わせる小径の草花とレン

ゲの咲く野辺 川岸で釣を楽しむ人々

夏の夕ぐれに聞く蛙の合唱

時折 訪れる名も知らぬ山鳥の気配……

あの頃の思い出と懐しきは、大切に心に残

しておきたいと思います。

十年後 自然と安らぎの中に生きずく、つき

み野団地の姿を念じつつ思い出をたどり記し

ました。

## 「つきみ野に住んで」

平井 博

つきみ野に引越して、もう九年にならんと

している。この住宅地に移り住んで、本当に

良かったと思う。五反田に近い池上線沿線に

住んでいた頃は、東京駅に出るにも、買物に

も何かと便利であったが、家の前に大きな、

鉄筋のアパートが出来てからは、陽当りも悪

くなり、空気も悪かった。父は以前から喘息

持ちであった。子供は丁度二才になり、こん

な処に住んでいたら家族の健康の為に良くな

いと考えていた矢先き、四十三年十一月頃だ

ったか、朝日新聞のつきみ野住宅地分譲の広

告をたよりにピクニックがてら、父と家内と

子供を連れて小田急線に乗った。当時、伊勢

原からのバスの運行も少なく平間廻りで苦勞

してやっと現地にたどり着いた。道は石ころ

の多いでこぼこ道で埃っぽく、現地の目の前

に大きな煙突があり、風流な感じは一つもせ

ず、ただぐく遠い田舎に來たという感じの方

が強かった。案内人の話そっちのけで、ブル

トーザーの音もけたたましい造成中の丘に立

つと、富士が大きく見え、南は、ずうつと下

に広がって樹林の繁みが点在し、平塚方面は、

かげろうにかすんで見えた。何となく美ヶ原

を想像した。私はどちらかというと、千葉方

面、埼玉方面より、東海道方面が好きである。

それに津久井湖CCに入っていたので、近く

なる利点もあった。父は反対であったが、私

はこの地が素晴らしい処だと気付き、その場で

契約した。四五年五月家が新築し移り住んだ。

すでに家が建っていたのは近くでは渋谷さん、

飯島さんだけであった。バス道路も舗装され、

運行台数も増し、住宅も日毎に増え、店舗も

建ち、公園、児童館も整備され、一層住み良

くなった。これも渋谷会長の並々ならぬ尽力

のお陰だと思つて感謝しております。父の喘

息も嘘の様になくなり、丈夫になり、八十三

歳を迎えようとしている。母も七十四歳、趣

味の謡にせつせと出かけ、毎日を楽しんでい

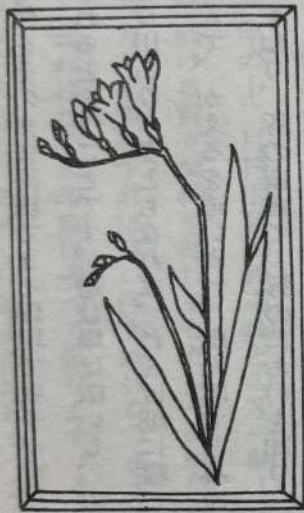
るようだ。この地に住んだことをつくづく良

かったと思つている。

## 小林 登史子

私達がこのつきみ野に初めて来たのは、昭和四十五年の四月でした。まだ家がポツン、ポツンと建っているだけで、子供の声も聞こえず静かすぎるくらいでした。その年の秋に越して来てもう九年目になりますが、当時のことを思い出すたびにずいぶん変わったなとつくづく思います。まだ「つきみ野」というバス停はなく、西沼目まで行ってから乗りました。こちらに来てまもなく、協同病院や小児科医院ができて、これでいつ子供が生まれても大丈夫などと思ったりしたものです。我家の回りは家はなく、少し離れた所に何軒かありましたが、二人とも勤めておりましたので、顔を合わせることもほとんどなく、主人の帰りの遅い日などは一人きりでとても心細い思いでした。今では笑い話ですがその頃の思い出が一つあります。冬の夜でした。突然、家の周囲をぐるぐる歩く音がするのです。し

かも一人ではなく二・三人の足音のように聞えます。主人もこわくなったらしく、私を押し入れに入れて「ふとんをかぶっていなさい」と言うので、じっとしていると、主人は何か持って雨戸のすき間から庭をのぞいているようでしたが、闇夜で外など見えるはずはなく、そのうち音も聞えなくなりましたので、「早く隣りに家ができるといいね」などと言いながら寝てしまいました。朝になって庭を見ると隣地との境のブロックに、犬の首輪と鎖がひっかかって切れていました。それを見て二人とも拍子抜けしてしまいました。まもなく近所に家も建ち始め、良き隣人・良き環境に恵まれて、つきみ野に住んでよかったと思っています。



## 「雑感」

中里 民子

つきみ野住宅のお仲間に入りまして、早くも一年八ヶ月が過ぎました。美しい自然と静寂の中で健やかな子供を育てたいと願い、この地に参りましたが、あまりにも生活環境が違いますのに、とまどいを感じました。

牛がえるの鳴き声と知らず、夜中にあわて飛び出てみたり、激しい風の音が、消防車のうなりにも聞えてみたり、昼間は窓を明けはなして居りましたら天上一面、まっ黒、ハエハエ……ハエの群に驚ろくよりも恐ろしくなり、大変な所に来てしまつてこの先どうしようかと不安になり、寝むれぬ日々を過ごした事もいく度かございました。

しかし「人の和」を重んじる会長様始め、役員の方々のお骨折りで子供達に思いもよら

なかった、数々の思い出を作らせていただき  
ました事は、この地にいたからばこそ出来え  
た事と感謝致し有難く思つて居ります。

枯れた土壤に芽が出ないと同じように、あ  
まりある陽光と緑に囲まれたこのつきみ野の  
土壤に心身共に健やかに育ってくれるであろ  
う芽を期待して少々不便な生活にも目をつむ  
っている昨今でございます。

皆様どうぞよろしくお願い致します。

## ふるさと

安部 純子

私は、伊勢原で生れ育った者ですが、駅近  
くでしたので、子供のころのこの辺の思い出  
といえば、岡田医院より先へ行くことは何か  
とても遠くへ行くような気がしました。時々  
父のフナ釣りについてきた時、小学校のわき  
の小川にしみじみがたしかいたように覚えてい  
ます。ここに越して来まして、もう三年が過  
ぎました。何よりもうれしいことは私の子供

時代をそのまま再現できる環境で我が子が育て  
られるということです。遊び場は広いし、山  
あり川あり、春ともなれば、れんげ畑に寝こ  
ろんで、かえるを追いかけて、田んぼでどろん  
こをねり、豚の畜舎で、豚のにおいを知り、

赤とんぼの大群を追いかけて、お寺の鐘で我家  
に帰るのです。そして、一年中、あの格好の  
良い大山が望めます。こんなによろしい自  
然環境の中で生活できる自分を本当に幸わせ  
と感じます。時々、学校、買い物が高いなど  
と聞きますが、学校は遠くであれば道くさの  
楽しみがあり、友達とケンカもできるのです。  
買物も裏の田んぼ道をゆけば、熟したトマト  
をながめつつ、大きな青大将に会うことさえ  
できます。又、梅、桜、梨、白木蓮と次々に  
花見ができる場所も発見します。不満も逆に  
うまく利用した生活はいかがでしょうか。何  
よりもつきみ野ができる以前から、村があり  
学校が建っていたのですから。  
ほんとうにすばらしいつきみ野です。

## 引越して来た

### 頃のつきみ野

斉藤 伸子

「海が見えるところに住みたい。」と、いう  
少女時代からの夢とは反対に、山が見えるこ  
の地へ来たのは、今から八年前の冬の日のこ  
とでした。その一年前に、初めてここへ来た  
時の感想は——人が住めるのかしら。まるで、  
「風と共に去りぬ」のヒースの丘みたい。東  
京の下町生れの私にとつて、ここは、あまり  
にも自然が多すぎて、心細い。西部の開拓者  
だわ。——しかし、秋田生まれのわがご主人  
様は、故郷に似た、ここを多めに気に入り、  
家を建ててしまったのです。ところが「住め  
ば都」って、ほんとですね。今では、ほんと  
うの故郷のような気がします。その当時は、  
家が少なかつたせいか、冷たい強い風が、毎  
日ひどく吹き、サッシ戸にもかかわらず、砂

が家に入り、掃除が大変でした。夏の夜は、ちよつと戸を開けると、シーツの上に虫が、バラバラと落ち、虫と寝るはめにおちいります。いい事もありました。春はピンクのレン

ゲ草のじゅうたんの上、つくしんぼうで遊び、セリを摘みました。近所の方の、お手製の草もちに感激し、秋は、山の夕暮れの美しさに物思いにふけりました。酔払いの歌声も聞こえないかわりに、夏休みでさえ 子供の声がないつきみ野、さびしかったな。こわい事もありました。越して初めての夏、突然、空が暗くなり、突風が吹き、はげしい雨が降ったのです。「これで、最期。今日は地球の最期の日」と、ほんとうに思ったものです。新聞でも、この突風のことは、報道されました。だんだん家も増え、私の最初の想像と違い、町らしくなった今のつきみ野に満足しています。自然は、バイバイと手を振って行くようです。赤ちゃんだった娘も、今年十才になります。これから、十年、二十年、決し

て、「リトル東京」には、ならず、「つきみ野」、その名のひびき通り、清らかな美しい町、住宅地としたいものです。

## 十年一昔と

### 云うけれど

橘 高 智恵子

県住宅公社の何回もの抽籤に落ち、伊勢原町人口三万の、のんびりした所の八幡台団地に十倍以上の競争率で、移り住んで居りました、が偶然と申しますか、たまたま昭和四十四年秋に、私が車を運転しながら、当時ブルトーザーで団地造成中の前を通りがかりまして、何時の世もマイホームの念願は強く、其の年の十二月箱根登山鉄道(株)との才一期工事に於ける買売契約を結びました。その時係員の方が七年もすれば良い住宅地になりますよと云われたのが印象に残って居ります。それから三年位して厚木小田原高速道路を予定し

て開通があり急速に便が良くなり、昭和四十七年のオイルショック前の建築ブームは、つきみ野にもめざましいものがあり、それ以后お仲間入りさせてもらいました。

まづ地域連帯として、我が家は小学校PTA活動から始まりました。今迄の都会的、義務的活動から、急遽、田園的、人間的ふれあいになり、つきみ野父兄会の先駆者達は、非常に御熱心に活動を起され、地域との連帯を保つ事に努力をされました。とまどいを感じた其の子供達は、高校、大学へと進み、大田ツ子になりきって、今ではつきみ野ツ子も数多く誕生して居ります。月日はめぐり早や十年と申しますが、親達のフロンティア精神にも一句切の時期がおとずれ、心身共に才二期の活動に入ろうとしています。その時つきみ野会誌十周年発行は非常に意義があり、更にあらためて、ゆつくり見直し明日への前進を計り度いと思います。又当世ルーツを求める心境にも寄与すると思います。昭和五十三年度

町内会組長をお引受けし、皆様ともお近づきが出来まして、昭和四十四年当時の写真を添えて思いのまま記して見ました。

## 十年一昔

### 清水 ヤス子

私が子供の頃亡き母がよく大山参りに来て長い石段をあえぎ乍ら登る話をしていたのを覚えていました。その伊勢原にまさか私が住むとは考えても居りませんでした。四十三年十月の末にこの土地が売り出されるのを知りました。丹沢連峯の山なみが美しく静かで高台であることが主人の気に入り早速購入することに決めましたがまだ造成途中で区画もはつきりせず「大体この当りがお宅の土地です」と担当の人に云われ私は内心がっかりしてしまいました。こんな淋しいバスも一時間に一本程度日中は全然ない時間もありました。

徒歩では駅から十七、八分もかかり家並もなく砂利道で人っ子一人通らないのです。不便な所と感じていました。四十五年八月に家が完成し引越して参りましたが当時は伊勢原町でした。たしか四十六年三月一日に市制執行と覚えています。夏休みも終りに近い日に、愛児園に次女の入園をお願いに行きますと早速明日からでも通園なさいと云われ翌日から入園できることになりました。今でも愛児園の御好意には感謝しております。同期の子供さんは四人で仲良く通園していました。その子供達も今では中学二年生です。早いものでつきみ野に住んで丸九年を迎えます。バスの運行回数も年々増加し、通勤通学も便利になり、外燈の設置も完全に近い程多数設置されて明るい町となり、ゴミの収集なども徹底され、定期的な団地ぐるみの清掃美化運動と又寿楽会、子供会、PTA、母親クラブ等による清掃奉仕できれいな町作りが出来、各サークル活動により住民相互の文化教養を高め親

睦をはかることが出来て参りました。歴代の自治会長さん始め役員の方々の御努力と住民の協力でもとも住み良いつきみ野になりました。十年前とはずい分変りましたね。これからも明るい町、美しい町、良い子の町にするためみんなと努力して行きたいと思います。

### 中台 和子

このつきみ野団地に、四十五年に引越してきて、早いもので九年目になります。

以前と比べると今は便利で賑やかになったことでしょう。

当時の世帯数百軒位で、私達の家の周りはまだく空地。つきみ草やススキが茂っており、スズメのさえずる声で目が覚める、自然味豊かな環境でした。

でも生活面では、商店もなくバス停もなく自宅には一年半位、電話のない状態が続く、

都会からやってきた私達には不便さと言葉も交わす隣人のいない私にはさみじさと静けさにおそわれる日々が続きました。

今では立派な自治会や児童館も出来て人との輪も多数になりました。

信頼、愛、誇り、思いやり、親子家族、みんなの心の交流、又感謝のある暮らしをしています。

これからも、益々成長していくつきみ野の地を大事に皆様と一緒に歩いて育てていきたいとねがつております。

## 小林 タカシ

私共もマイホームを夢みて、昨年八月に東大竹から、つきみ野団地に越して早や六ヶ月が、あわただしく過ぎてしまいました。以前から、つきみ野団地の地名は聞いておりました。始めてつきみ野団地に家族揃って家を見に来たのが六月頃、団地内の道路も巾が広く

周囲もステキな家ばかりで、家の周りも緑が多く大変気に入りました。又団地内には、文庫、児童館、子供の公園等、一応揃っているようで、子供は大変喜んでいようです。

二人の子供も近所の子供さん達と引越して来た時から遊んでおり、私達親がまだまだ、なじみが浅く、コミュニケーションがよくとれません、今後も地域の皆様と共々仲良く、おつき合いをしてまいりたいと思います。よろしく願います。

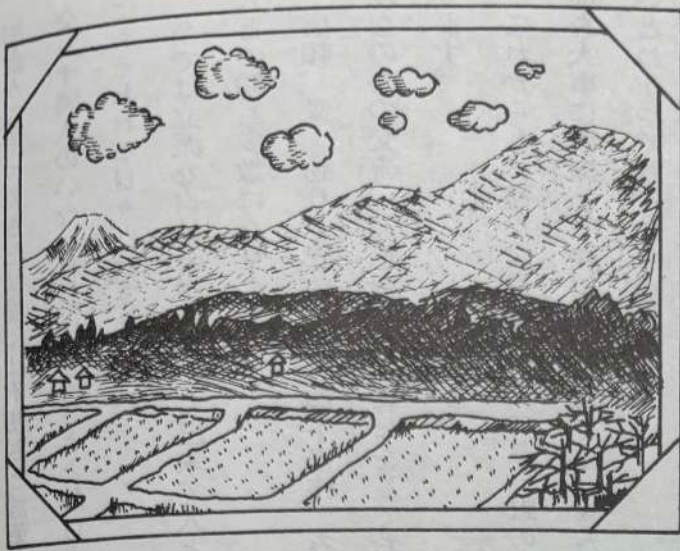
## 「つきみ野団地を ふるさとに」

### 中野 松彦

私たちが大山のふもとの田園の町、伊勢原に転入したのは、四十六年十月でした。その当時の伊勢原は、まだ市制が施行されたばかりで、住民登録のために行った市役所の建物

は古く、職員もどこことなくのんびりしているような感じを抱いたものです。しかしこの十年間、伊勢原市も四十年代の高度成長に伴い、工場進出や宅地造成が急激に行われ、それとともに人口も著しい増加をとげました。しかも、工場が進出し、人口が増えたとは云え昼間の人口が少なく夜間人口の方が多い、いわゆる典型的な首都圏におけるベットタウン化したようです。このため駅前には東急デパートなどの大型店舗も進出するなど商業も著しい発展をみせるようになりました。この間、市の都市計画により消防署、警察署、郵便局、登記所、保健センターそれに市庁舎が国道二四六号線沿いに集められ官庁街となりつつあります。また東海大学病院の出現など市全体としてはたいへんな変ぼうをしました。ところで、つきみ野団地はどうでしょうか。わが家が完成し転居した当時は、まだ空地が多く、その空地などは子供たちの格好の遊び場となっていました。「太陽まるかじり」などと宣伝されると隣人達がどつとふえ現在はあまり

空地は目立たなくなりました。団地の三つの公園が整備され、児童館の完成、また日常生活にはこと欠かない程度の店も進出してきました。これから先の十年間に、このつきみ野団地がどのように変化していくか推測することはむずかしいですが、私たちが住んでいるところは、遠くに富士を臨み、近くに大山をおおぐことができ、近くの小川では小ブナつりもできる。そしてなによりも田植え風景も



見ることができし、ブドウ、ナシ、カキな

どの落葉果樹のさかんなところでもある。

まだまだ緑地も多くふるさとと呼べる要素が多く残っている。私達にとっては「第二のふるさと」であり子供たちにとっては「ふるさと」そのものにちがいありません。この残された自然を伊勢原市からつきみ野団地から失いたくないものです。

## 「花にまつわる想い」

工藤 寿子

今から四年ばかり前に、このつきみ野の住人となりました。それまでの、私の「花」との関わりは、せいぜい園芸雑誌のページをめくるか、たまに買い求める観葉植物の鉢花……と言う程度のものでした。

……がこのつきみ野に住んで、住宅環境、自然環境に恵まれたせいか、自分の手で、花を

育てようと思うようになったのです。そして実行に着手の段階で——山歩きを唯一の趣味とする主人も参加するはめになります——。



初めての播種・育苗・定植を終えて、花を待つ間の長いこと、祈りにも似た思いでした。結果は、そう上首尾には行きません。巨大輪のパンジーは小さなビオラかと見まちがうばかりで、一袋全部を播いたカスミ草は文字通り霞の如く消え入り、カーネーションはまるで撫子の花の如く……繰り返しこんな状態が続きました。最近になって、やっと、それらしい花が咲くようになったのですが、それ

でも、これぞ……!と思う花とは無縁です。

時たま、我家の庭には、私の願いを無視して、雑草と呼ばれる野の花が出現します。勿論、どこからか種が飛んで来たのではなく、私の丹精をこめた??結果なのですが……。

「花は野にあるように」と茶人の言葉もあるんですが、茶花としては、ともかくも、今の私の切なる願いは色鮮やかな花を……と思うものですから、「新鮮で、つつましく、上品だ」との主人の弁は耳に入らず、この結末に大いに不満です。

移り住んだ頃、前一面が空地であった所には、家々が建並び、手入の行き届いた庭には、思い／＼の樹木が植わり、花が咲き、その様相も一変しました。環境は刻々と変化するのには、我家の庭の花は、たいした変化もみせず、種まく人に失望ばかり与えています。尤もその原因は、花には預り知らぬ所で、もっぱら、種まく人の側にある事は、重々承知しているのですが、花が、もの言わぬものですか

ら、責任転嫁している次才です。

かくなる上は、唯一の共同戦線の一員である主人の脱落を防ぎながら（ちよつと油断すると、すぐに戦線逃亡を計るものですから）しこしこと「花育てごっこ」を続けるしか方法はないようです。

いずづれにしても、花にまつわる想いは、一層つのるばかりのようです。四季折々の花が、私達の生活に季節を運んでくれる日を待つ昨今です。

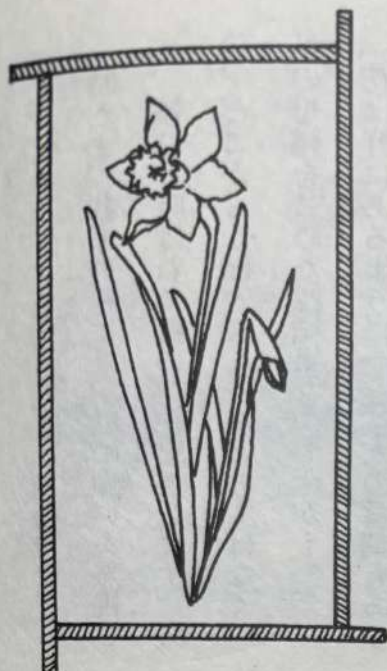
## つきみ野に

### 移り住んで

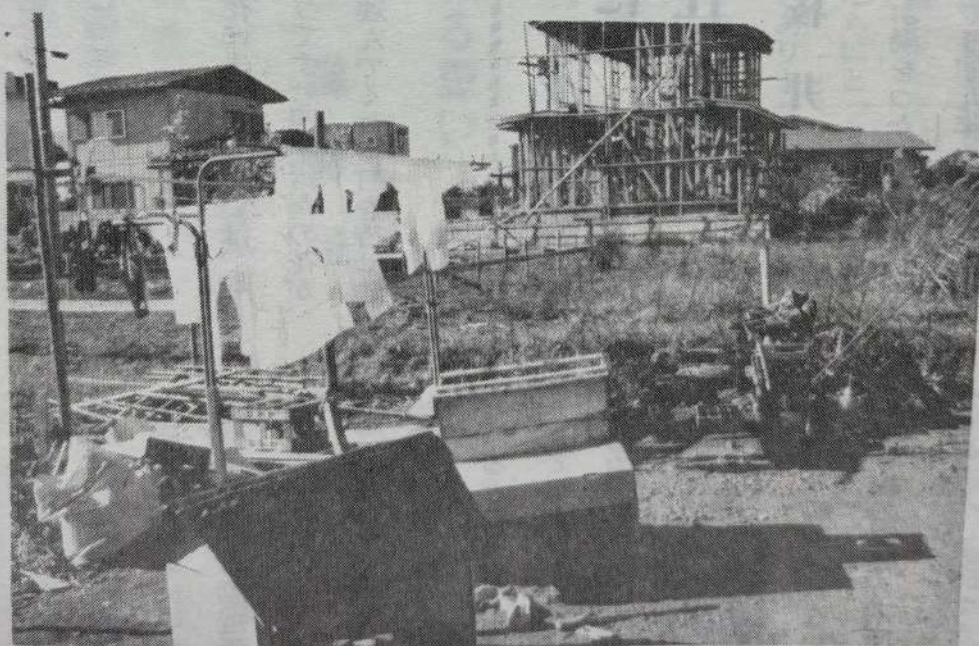
桜井 芳枝

隅田川の流れでうぶ湯をつかった私が当地つきみ野に移り住んでほぼ九年の月日が無事にたちました。小さかった子供も大きくなりやっと一息ついたところです。でも子供を育

てるのには、比較的恵まれた環境だと感謝しております。今どき仲々このようなのんびりしたところは少ないのではないかと思います。でもにぎやかな浅草の商家で育ってきた私には、最初とてもきびしく、退屈なような場所でした。その中でセリを摘んでそれをお菜にすることを御近所の仲のいい方に教わりました。セリがどんな草でどこに生えているかも全然知らなかったのに今では、私の大好物になりました。そのセリも今ではとれるところも少なくなり、家が建ちならんできてしまいました。駅からのバスも本数が増えとても便利になりました。当初、本当にバスも少なく、大抵、子供を背おい、両手に荷物をもつて駅から歩いてしまったものです。今もって解消されないのは、東京へ出る迄の小田急線の混雑と不便さです。これは伊勢原に住む誰もが感じていることではないかと思えます。すでに伊勢原は東京への通勤圏、それなのに遠い新宿迄を大抵立ちづくめ、ぎゅ



うぎゅうづめで肉体的には疲れてしまいます。いつも身体はベストコンディションとは限らず、座っていかれたらと思うことが皆さんあると思います。横浜からでも海老名乗り換えだと、電車が本厚木止りで又、次の電車を待ったり、実質的に時間がかかってしまうことです。小田急は会社本位で乗客へのサービスという面でもうちょっと考えていいのではないかと思います。この問題は、個人ではなく住民及び伊勢原市自体で小田急に働きかけたらと思います。通勤、通学はどの家でも、ある大事な問題だと思います。この問題には私も尽力をおしまないつもりです。これを契機に一つの力となって欲しいと思います。



昭和47年 4-4組のあたりです。

# 会計の四季

田村 武雄

自治会の会計を担当するようになってからはや一年を迎えようとしている。この機会に会計の記録から「つきみ野」の姿を振り返ってみたい。

陽春三月、役員交代でバトタッチを受ける。間もなく総会の準備をすることになった。何もかも、はじめての役員同志、自治会事務所に集まり毎晩会議が開かれる。……が決まって役員会の終るのは午前〇時を過ぎていることしばし。役員とは何と眠たい立場にあるものよ……と思ったものである。

桜の花が咲くころ、児童館を会場として総会がひらかれる。予想以上の参加者をむかえて議事は和気あいあいのうちに進行し自治会の行事と予算が決まる。さあ、これから忙しくなりますね……と役員の誰かが洩らし

た言葉は何か印象的だった。会計を担当する立場としては「出づるを計って、入るを制す」の心構えで、予算の効果的使用をころがけねばならないものと思った。

組長さんが自治会の会費を集金、会計役員に届けるのもちようど此のころであつた。お互いが慣れぬ手つきで会費の受渡しをするのも初めてであつて、自然と笑いがこぼれる。

若葉の季節を迎えるころ、試みに開催した地域座談会は、支出経費はささやかであつたのに反し収穫は大きかつたと思う。住みよくするための意見の交換は、自治会事務に有益な資料を提供し大いに役立っていると感じている。

夏が近い、若葉が青味を増し空地には雑草が生え繁るころで空はぬけるような晴天が続く、例年どおりこも地域清掃の時をむかえる。下水溝の清掃、通学道路整備、公園の除草など……。なかでも空地の雑草は住民の頭痛の種、美観と火災予防上（秋には枯草と

なつて火を呼ぶ危険がある）草刈作業は急務であつたが、老人会の奉仕作業や組単位住民の協力による除草作戦が効を奏して、空地はみごとな緑の芝生に変じたことは嬉しいかぎりである。会計からの支出は、除草作業費用として僅かな金額が計上されているが草刈は自治会行事の価値ある仕事として空地がなくならないかぎり継続されて行くことだろう。

やがて迎える夏。つきみ野納涼大会の行事が近い。子供たちに夢を……と渋谷会長の労作による子供みこしが完成する。祭伴天の購入、休憩所の準備、みこしコースの選定、盆踊り会場の整備などが実行委員の人たちによつて進められていった。

はじめてかついだ団地のみこし、子供たちの顔はみんな晴ればれとしている。その顔と体がみこしをかつぐ、みんな元気一杯、家族も一緒になつてみこしに同行する。楽しい掛声が団地内をこだまして行く「ワッショイ」「ワッショイ」……夜は、児童公園に架設

された舞台を中にして婦人と子供たちの踊りの輪が繰り広げられ、夏の夜が涼風をともな  
って楽しく更けて行つた。しかし実行委員  
の裏方さんは大変だった。御苦労さま。

祭に参加した子供たちにはお菓子配られ  
たが、会場の売店もお蔭で繁昌したため、納  
涼大会経費は売店収入および寄付金によつて  
一部がまかなわれ、行事の規模に比して支出  
額は予算の範囲内にとどまったことは何より  
であつた。

そして十月は体育の秋。老いも若きも、子  
供たちも……一諸に楽しむ行事として、秋  
のレクリエーション大会がひらかれた。全戸  
数が参加してほしいとの願いをこめて、各家  
庭に参加賞を交付する方法を採り、住民地域  
のなかを徒歩で競技するものであつた。実行  
委員は自治会役員と組長があたり、大会は住  
民の多数参加でにぎやかなうちに終了した。

この大会は自治会費還元策の一つとして、  
また住民対話の広がりを見込んで行なつたが

意義ある行事として好評だつたと思われる。

自治会行事のしめくくりには、餅つき大会  
が児童公園の広場で行なわれ、間もなく「つ  
きみ野」の四季も一つの年輪を刻み終ろうと  
している。

会計の帳簿には四季の行事とともにその支  
出経費が記録されているけれど、あらためて  
見る数字のなかに、住民、皆さんの協力の姿  
がにじみ出ていることを痛感し、今後もう  
ありたいと願うものである。 以上



## 夢、ゆめ、ユメ、

浅井 貞 則

来る地方選挙に向けて、報告会や何某を励  
ます会等の一連の事前運動なる物が催され、  
これから益々盛んになって来ますが、政治な  
る物は何がしの利益代表が行っているのでは

るから、その選挙に我々の利益代表を何とか  
出せないものかと夢うつに考えて見ました。

道ももつと良くなるだろう。ごみの問題も今  
と異つたものと良い収集の方法が出来るので  
はないだろうか。政治とは、そういう地域の  
利益に立脚されて、多かれ少なかれ運営され  
ているものと思います。その代表は一団地の  
みでは選出出来ないで、同じ様な規模、或  
いは悩み、要求を持つ団地で手を取り合つて  
出来ないかなあ。以前に自治会活動につい  
て勉強して見たいと思つた事があります。市  
内にも色々な団地があり、その団地自治会と  
連携して、自治会の抱える問題等の研究を通  
じて、「あり方」を考える。そこから発展さ  
せ、ゆく／＼は伊勢原市団地自治会連合会な  
るものが設立される。そして地域の向上に寄  
与する。そう云う処で、市には運動場が少な  
いので団地連合で農地を借り受け、多目的グ  
ランドを作り、まずは子供達にのび／＼と運  
動をさせられるし、各種スポーツのコーチ等

も招聘出来る。他にまだ沢山のメリットがあるでしょう。代表選出もさることながら、こういう目前のメリットが実現出来ないだろうか？夢にも二通りあって、寝ている時に見る夢と、将来の希望としての夢と二通りあるんじゃないかと思いますが、広報十号に寄せて拙文で失礼ではありますが、過去に広報として、皆様に御協力いただいた何分の一かの御返として、床で見る夢の方を書かせていただきます。

## 歩行ラリー大会

T・Y

ラリーとは「再び集まる」という意味で、昔、馬に乗った兵士が、野山をかけまわり、再び元の場所に集合する訓練をしたのが、ラリーの始まりだと伝えられている。この馬の

かわりに、自分の足で歩くのが歩行ラリーです。

ある地点をスタートし、野山を歩きまわり再び、元の地点に戻ってくるスポーツで、頭と身体を一諸に使いチームワークが絶対必要な、教育的ゲームといわれています。

ラリーの出發は夜で、ゼッケン順に一分間隔、二人一組のチームが、手に懐中電灯を持ち、スタート時に渡されるコマ地図をたよりに、指示された速度で歩いていきます。コマ地図は書かれてある標識がなければ道なりに進んでいくことになっており、標識は、電柱であったり、門柱であったり、ガードレールであったり等々が書かれてあるだけのものです。又指示される速度は2K H〜5K Hで、次のチェックポイント（係員が記録をする所）迄その速度を保っていかなければなりません。チェックポイント間の距離は全く解りませんので、コマ地図をたよりに暗い道を、三人のチームワークでさまよい歩いていきます。一

つの区間をきちんとやること。「過去を悔ま  
ず未来を憂えず」の精神でいかにミスを少なく  
するかが必要なわけです。

研修会として会社ぐるみで実施されている  
所もあるようですが、私が参加したのは「あ  
しのこ学園」主催によるもので、開催地は宮  
城県の遠刈田温泉、蔵王キャンパス。キャン  
パスリーダーにはソニー参与の小林茂先生を  
迎え十才から四十五才位迄の男女百四名参加  
の盛大な大会でした。深夜の蔵王山麓を十三  
キロ、約三時間強のしんどいラリーでした。

日常の雑務を忘れ、運動不足で弱っている  
足の鍛練 キャンプでの自炊生活、年令に関  
係なく参加が出来てスポーツとゲームの喜び  
を感じる事が出来ました。小さな灯をたよ  
りに、元に戻る為に二人が協力し合い、道の  
途中で出会う参加者の心の底から出て来るほ  
がらかな「頑張れよ」の声、転場の中とは違  
った仲間の再認識、ラリーが終ってからの冷  
しソーメンの味、成績発表での一喜一憂等々

の想い出を残した夏の一日でした。

レクリエーションのよさは、楽しみながら心身の疲れを回復す、みんなの心をひとつに結び合うところにあるとか。機会がありましたら参加されてみてはいかがですか。「過去を悔まず未来を憂えず」に行う歩行ラリーを。

## スケート

石川 歩

私は、二月十二日に、近所の人たちと、向ヶ丘遊園地へ、スケートを、やりに行った。お休みのせいか、ものすごく混んでいた。リンクへ上った時は、一年ぶりに、スケートを、やるので、すべれるかなあと、不安に思った。手すりから手を、はなしては、みたが、こわくて、すべれなかった。

私は、お母さんに、「お父さんどこにいるの!!」といった。そしたら近所の子たちのめ

んどろを見ているわよと言った。私と妹は、「私たちを、そっちのけにして、ほかの子のめんどろを、みているなんてつまらないなあ」といった。私は、ちよつぱりヤキモチを、やっていた。お父さんを、さがして、よびとめて、「お父さん、私といっしょにすべって!!」と手を、つないですべってもらった。お母さんが、もしころんだら氷が、割れやしないかと思つてヒヤヒヤしていた。そのことを、お母さんに、話したらわらつていた。私もだんだんすべれるようになってうれしかった。それから遊園地へ行つて乗り物に乗ることになった。お母さんたちは、「三回ずつネ!!」といったけど、私たちは、「三回ずつがいい!!」と言いだした。そして、子供チームと大人チームに、別れてジャンケンをして決めることになった。子供チームが、勝ったら三回ずつ乗れて、大人チームが、勝ったら二回ずつ乗るということになった。子供チームが、勝つたので、三回ずつ乗れることになった。それ

で私たちは、初めにボブスターに、乗りました。ジェットコースターに、似ていて、迫力が、ありました。そのほかにも、地底探險や、ビックリハウス、ウォーターシュートなど三回ずつだったのがいつのまにか、四回ずつになつていた。どれもこれも、迫力のある物ばかり、えらんだので、終つてから、つかれてしまった。

もう一度つれて行ってほしいと思う。

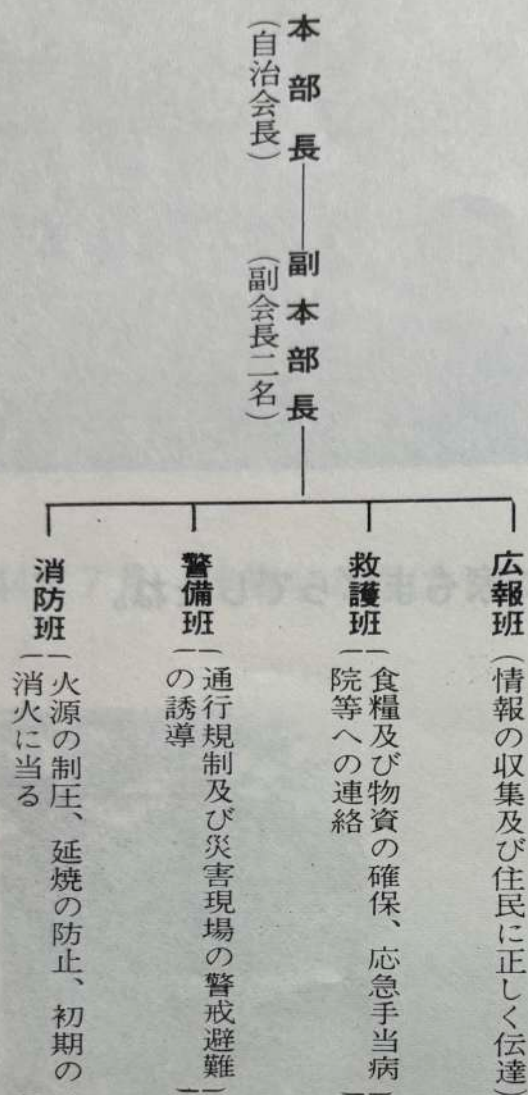


地震の時の心得

① ずばやく火の始末

つきみ野自治会内にも、自主防災組織が、  
組長さん等によって発足致しましたので、し  
くみをお知らせ致します。

## 「つきみ野地区自主防災組織」のしくみ



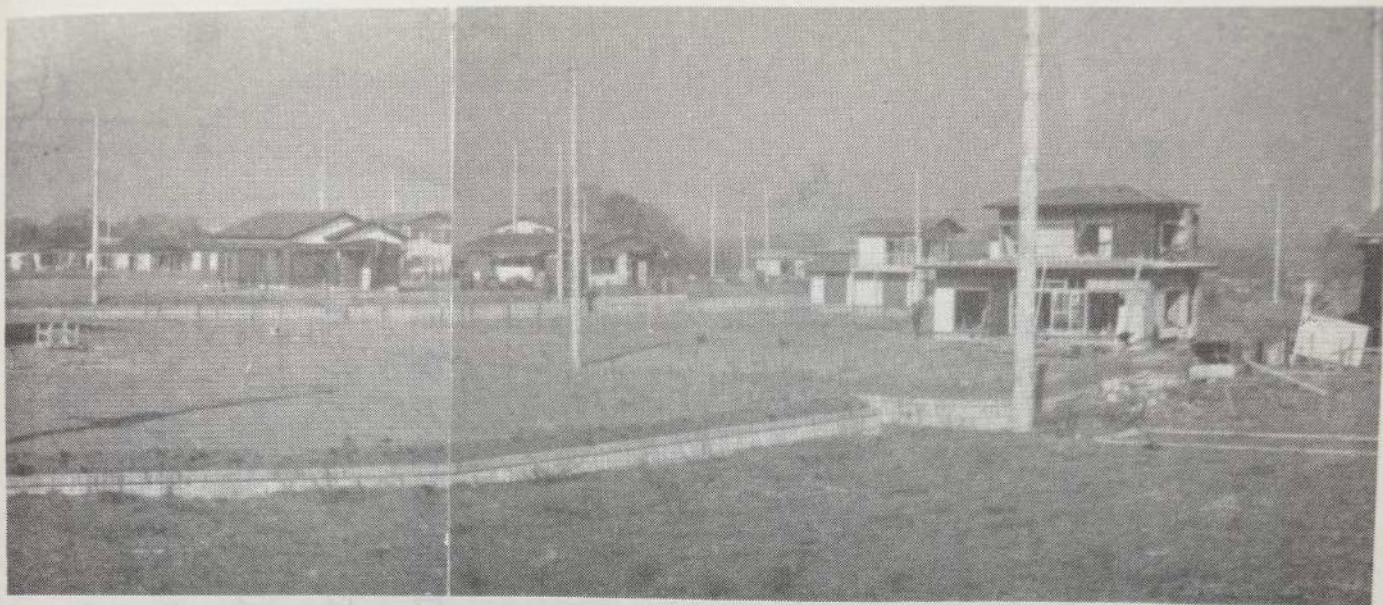
## 地震の時の心得

- ① すばやく火の始末
- ② すぐに外にとび出すな
- ③ 一ヶ所だけは(ドア又は窓)開けておく
- ④ 秩序を守り、デマにまような
- ⑤ 避難は徒歩で、荷物は最少限に
- ⑥ 危険箇所には近よるな

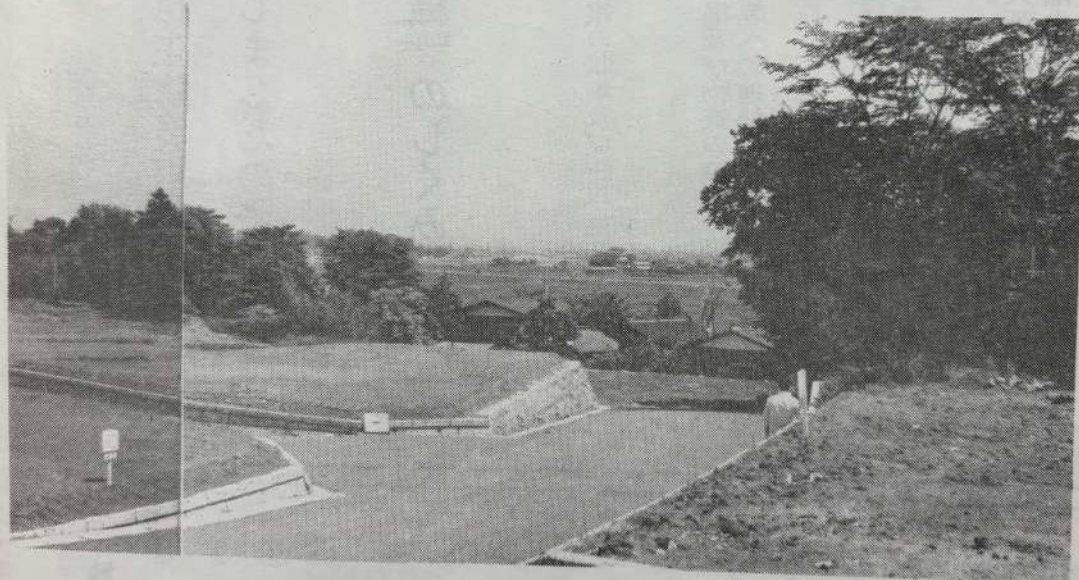


## 火が出た時の初期活動の三原則

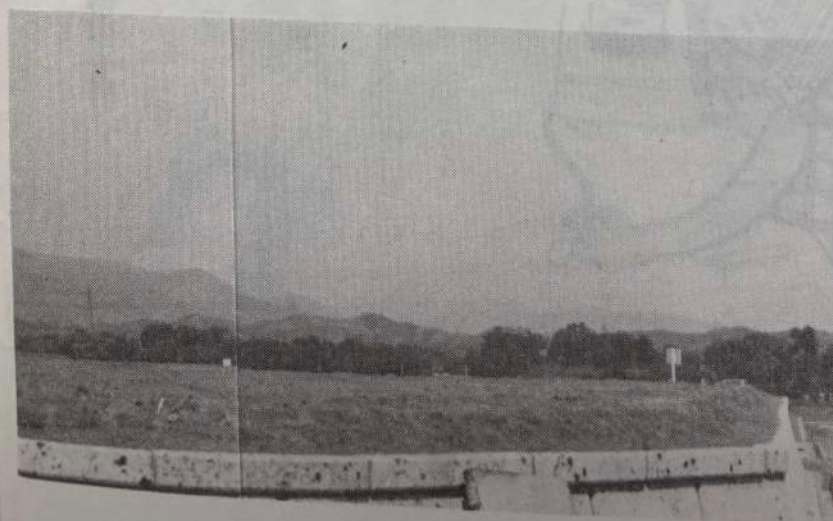
- ① 早く知らせる
  - ② 早く消す
  - ③ 早くにげる
- (わが家の防災読本より)



まだほんとうに家もまばらでしたね。



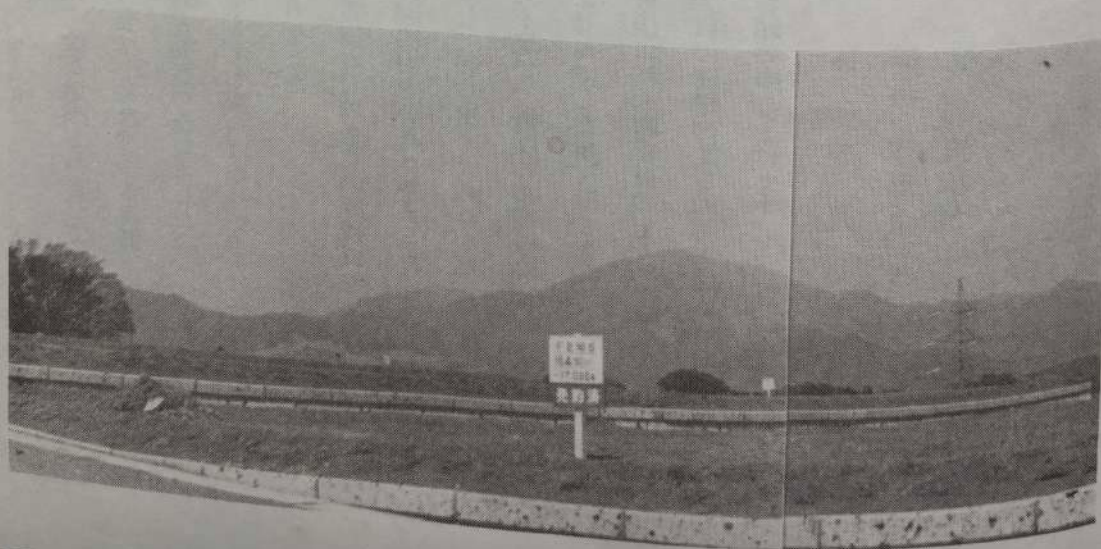
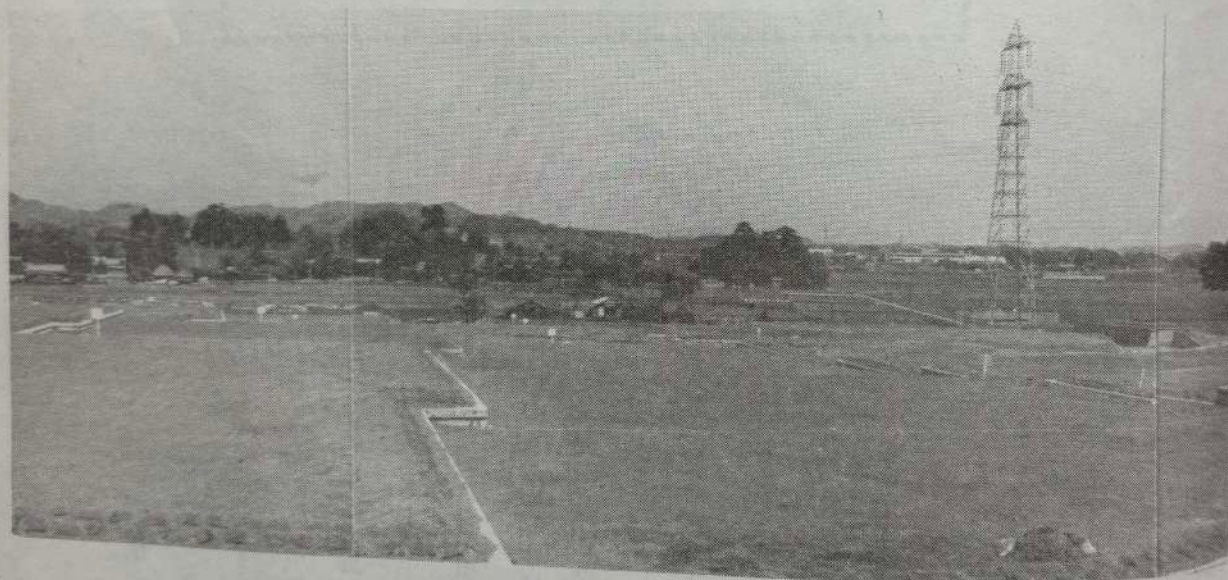
昭和四十三年の売出しの頃です  
二一組の田村武雄さんの近所



昭和四十三年の売出しの頃  
大山もくっきりと見えて  
とてもすばらしい風景です



昭和44年7月 建築中の家は1の2組大野俊雄さんの家です。



つきみ野の現状

|            |       |
|------------|-------|
| 世帯数        | 四三二世帯 |
| 空地         | 八八ヶ所  |
| 防犯燈        | 九四本   |
| 消火栓        | 五ヶ所   |
| 公園         | 三ヶ所   |
| 生ゴミ<br>収集所 | 十ヶ所   |
| 不燃物<br>収集所 | 三ヶ所   |

(場所は別紙地図を参照下さい)

昭和五四年二月現在

編集後記

今年は、つきみ野住宅地が造成されまして、十年になりますので、会誌十号は、つきみ野十年の思い出の特集号を発行いたしました。私達広報委員と申しましても素人ばかりですがなんとか出来上がりました。

これも一重に会員皆様からの多くの原稿資料及びアンケートの御協力をいただきましたお蔭と深く感謝いたして居ります。ありがとうございました。力不足で、皆様の御期待に添える会誌が出来ませんでした事、深くお詫び申し上げます。最後に新広報委員の方々の御活躍に期待し、会員の皆様の変わらぬ御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

表紙題字 林 芳 夫

表紙写真 橘高 智恵子

カット 林 満喜子

第 10 号

発行日 昭和54年3月

発行者 つきみ野自治会  
役員・広報委員

発行所 浅田印刷